肝っ玉母さん 今日もがんばる

髙田 昌代
大阪府

肝っ玉母さん、隊長、頼れるブロック長…
髙田昌代さんのニックネームは、どれも威勢がいい。
とにかく働くことが好きという髙田さんは、いくつもの顔を持つ。
手話通訳者、地域コーディネーター、青少年指導員、学校支援サポーター、
グループホームの世話人、うどん店のアルバイトなど。
周囲の心配をよそに、いつもニコニコ、愛用の軽自動車で飛び回っている。
髙田さんが手話を知ったのは22年前のこと。
田尻町に大相撲の巡業が来たときに手話通訳の場面に出会った。
あんなふうにできたらカッコええな、と思ったという。
さらに聴覚障害者の野原孝子さんとの出会いが手話通訳を志すきっかけになった。
たまたま幼稚園のPTAに3人の手話通訳者がいて、誘われるまま野原さんと
一緒に役員になった。「仲良しになった野原さんと話がしたい」の一念で、
教室に通い必死で手話をマスターした。
「手話が自分の世界を広げてくれた」髙田さんは笑顔で振り返る。

▶田尻町は大阪府の南部に位置し、沖合には関西国際空港がある。
日曜の朝市で有名な田尻漁港で親友の野原孝子さんと。

▶「髙田さんは、明るく積極的で、手話も分かりやすい。
将来ボケても一緒に歩いていきたい」野原孝子さんは笑顔で語る。

▶日・月・火・金の週４日間、国道沿いのうどん店で、夜10時から朝４時までアルバイト。
昼間ボランティア活動をするため、夜間に働く髙田さん。

4月1日オープンの泉州地区障害者施設「なんなん」は、
重複障害者施設「なかまの里」（次ページに掲載）に入居する人たちの
作業場兼地域の障害者相談室として誕生する。
“大阪府の南部”にあることから「なんなん」と名付けられた。
住宅地の変形の敷地を生かした、奥行きのある建物が特徴で、
「なかまの里」の作業場のほか、泉州地区の「障害者相談室」が設けられ、
泉州ブロックの地域活動の新たな拠点となる。
この地域の期待を集める新施設の開設にも、髙田さんは奔走してきた。

なんなん

スタート

事務局長の日髙良子さん、副ブロック長の山口有貴子さんは、
地元の皆さんのご理解ご協力と、全通研・大阪支部・
泉州ブロック会員のチームワークが無ければできなかったという。
「5年前のアンケート調査で地元のニーズをくみ上げることから
スタートして、たくさんの会議を皆で重ねてやっとここまできました。
髙田さんはリーダーシップを発揮して、会議にも自ら進んで
出席するなど、情熱的に取り組んでくれました」
「なんなん」のこれからの課題は、利用者の掘り起こしだという。
必要とする人はたくさんいるはず。ブロック長5年目の髙田さんは、
遠方でも会員拡大のためには飛んで行く。

髙田さん　日髙さん　山口さん

▶建物の奥には、「なかまの里」の作業場として、ケーキやクッキーを手作りする「調理場」、
袋詰めなどの仕事をする「作業場」がある。いずれのスペースも広々としており、
天井が高く、窓も大きく、豊かな開放感が魅力だ。

▶利用者にはやさしく、メンテナンスはしやすく。トイレや洗面・手洗いスペースは、
車椅子で使いやすいよう、バリアフリー設計が徹底されている。

泉南郡熊取町の重複障害者施設「なかまの里」には、
髙田さんと志を一つにする“仲間”がたくさんいる。
障害のある人たちのために日中は活動したいという髙田さんだが、
毎週水曜日は午後5時から翌朝9時まで、「なかまの里」の
グループホームの世話人として夜勤をしている。
施設長の犬飼さんに「あなたならできる！」と声をかけられた。

時には、深夜の仮眠時間中に入居者が相談に来ることもあるが、
髙田さんは、人に頼られることがうれしいのだという。
キッチンカーで各地のイベントへ出かけて、障害者のみなさんや
子供たちに笑顔をとどけるのが将来の夢という髙田さん。
もちまえのパワーと情熱で、きっと実現してくれるだろう。

仲間

写真／文　佐藤 篤

▶重複障害者施設「なかまの里」のスタッフの皆さん
▶「なかまの里」犬飼施設長とは、会えばハグをする仲